Ⅲニューヨークにおける日本語学習状況

１９９８年の海外日本語教育協会の調査によると、ニューヨークでは日本語クラスが有る学校が小学校が３校、中学高校が３３校、大学が３７校、ジャパンソサエティーを始めとするその他の機関が、７校ある。

中学高校の場合、５クラスでフルタイムになる。ニューヨークではアメリカ西海岸とは違いフルタイムの先生は少ない。（フォーレースマン・ユニス・スタイベサント・サヤセット等）そのためにも日本語以外のＥＳＬもできればフルタイムになれる可能性がでてくる。
パブリック校の場合は求人を一般公募しなければいけないので、新聞の教育関係の求人欄をチェックして、履歴書を送り面接をうける。
その時ビザのサポートのことを話す。
私立校の場合はビザのサポートをしてもらえる可能性もある。
私立の場合コネで決まる可能性が高い。

大学の場合はアンダーグラジュエートとコンティニュイングエヂュケーション等の語学部門があるので調べて見るといい。
フルタイムのポジションはやはり少なく、経験と、Ph. D. を求められることが多い。タイミングの良さが必要。

公立校の場合学校によっても違うが各学期に校長と学部長が一回ずつ授業内容をチェックする。学校全体の教師のミーティングが月１回、学部のミーティングが月１回ぐらいある。
日本人の先生の場合日本とアメリカのクラスマネージメントの仕方が違うためクラスマネージメントで苦労する先生が多い。

Ⅳ仕事を探す

１）資格　２）経験　３）情報　４）タイミング　５）実行力

ポジションを得るには各州の教員資格や日本語に関連したＭＡ又は、Ph. D. と共に経験が重要視されるので、経験をつむことが必要になる。そしてウエブサイトを調べたり、ＡＴＪやＡＣＴＦＬの協議会等に出席して面接の機会を利用したり、集めた情報にレジュメを送付する。

<u>１）資格</u>

公立の小学校、中学、高校で教える場合はニューヨーク州の教員資格が求められる。州によって違う。雇われる時に資格がない場合は教えながら出きるだけ早く教員資格を取るようにいわれる。私立学校の場合は有ったほうが望ましいが教員資格がなくてもポジションは得られる。

大学で教える場合は、教員資格は求められない。終身在職件を手得するにはPh. D. が必要である。ＭＡの場合は１年間又は１年毎に更新する臨時のポジションになってしまう。